

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 福島の里

日付 平成 20年 8月 22日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 在宅介護経験8年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

社会の中で自分に不自由さを持った人にさっと手を差し出して「元気を与えよう」「愛を捧げよう」とすぐに実行できる人とは！「こんな人ですよ」と云える代表者の姿を見た。女手一つで、すごい志を持って、寸暇を惜しんで社会福祉活動をしている人が居た。先に障害者の授産施設“夢工房”を持ち、早朝から施設に行きパンや豆腐を作り、障害者の生きがいと生活を支えている。「今朝、可愛い子(代表者にとっては、ここで働く人は子供)一人ひとりに給料を手渡ししてきました。もっとあげられたらいいんだけど」と云う代表者は、グループホームをしてみても、と云う話があり、資金や用地の目途がついて、平成19年7月2ユニットのホームを開設した。自分の祖母や父を看取った経験もあり、老人に対する思いも強い。老人でも障害者でも同じ、人を愛すること、老人が好きであること、そして人に対する気付きを最も大切にすることが代表者の信念である。ホームを訪れ老人の笑顔を見ると「ほっと」する。ここ来ると一番に自分が癒されるそう。

自分の力だけで起業する女性をたくさん知っているが、その人達に共通している事は、『有言実行』である。このホームで生活している利用者が人間らしい生活をしてもらいたいという願いを日々実現してくれるのは管理者・職員である。2人の管理者は特養や老健の施設を経験した人達であるが、グループホームを理解し、利用者に対する気付きを最も大切にして、職員と共にケアやサービス提供を日々努力している。職員の一人ひとりの地道な業務と利用者に対する愛情でホームの雰囲気を作り出す事ができる。そこで利用者の安心・満足・信頼の気持ちで穏やかな生活が保たれるだろう。

2つのユニットの運営は全く同じで、利用者も一緒に行動することも多いが、両方のユニットの雰囲気は全く違う。一つは人間同士の交わりによって会話が弾む時もあれば、自分一人の世界で暮らす事もできる人達の集団である。比較的元気な人が多く、自分達の意志を持ち発言もできる。他の一つは、それぞれに得意な技を持ち、自分の作品を作ったり、手芸で物づくりをじっくりする集団である。そこに住む人、職員によって生活のパターンは随分違うものだ。どちらにしても、利用者は他人を尊重しながら自分自身の生活をきっちりしている人々だと思った。

設立して丸一年を経過したばかりであるが、一つひとつの業務の細かい点の改良は年々積み重ねていかねばならないが、管理者・職員がその意図を理解し、実行しようとする連帯から生まれている姿と思うが、そこに職員同士の心温まる愛情と仲間意識も感じる事ができた。

特に改善の余地があると思われる点

認知症というよりは、人間としての付き合いの中で最も必要な事は『コミュニケーション』であろうと思う。利用者と職員・利用者同士・職員と家族・代表者と職員・職員同士の本音でコミュニケーションの飛び交うグループホームを目指して欲しい。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：運営理念や利用者に接する心掛け等を、本当に実行していけるのは、これからである。まずはホームの中でしっかりと考え方を定着させていってもらいたい。</p> <p>2、全体的に見て…：「認知症になっても、要介護者になっても人間として常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めると共に、利用者の必要とする適切なサービスを提供します」という運営理念を掲げている。これは極一般的などこにでも言っている言葉であるが、代表者や管理者が言っている『気づき』の大切さ、そして利用者や家族に対する本当の気づきが日々の職員の行動に密着していれば、この運営理念に掲げている言葉が生きてくる。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：立地している環境、敷地の広さ、建物や設備等申し分のない生活空間が出来上がっている。その空間で1年間利用者は生活してきた。現時点で改善すべき点はない。</p> <p>2、全体的に見て…：1年経過したホーム全体は、まだまだ利用者に馴染んでいないピカピカのハードな施設である。リビングルームには作品を貼ったりしているし、囲碁、将棋等も備えられている。各居室もその人柄を表わす部屋づくりもされている。外には立派な菜園があり、野菜が育っている。</p> <p>現在の生活空間には、どこを見ても人間の生活臭が味わえない。これは当然のことであり、家庭でも同じであるが、住む人の気持ちが家に描かれるのは年月が必要である。このホームでも、利用者と職員で生活というソフトをこの空間に塗り込んでいってもらいたい。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：利用者に対するケアマネジメントについて、その仕事一つひとつの改良を日々積み重ねていき、全体としてのケアの質の向上につないでいける。その中で特に職員のチームケアのあり方、利用者の人間としての尊厳を大切にするケアのあり方、利用者の自由な暮らしの実現などを良くしていこうと考えている。</p> <p>2、全体的に見て…：「利用者に対する日常の生活の支援」と「その人の精神・身体面で改善していかなければならない、又は、現状を維持していく必要があるケア」の2通りのケアをホームでは実施している。前者は日常生活の中でケアしているが、その中で後者のケアを考えなければならない利用者の状態の変化も生じてくるだろう。この後者のケアが介護計画でしっかり介護項目を定め、その実行の効果をモニタリングして、その人の改善の効果を見出すというホームにとっては必要な業務である。有効な介護計画と記録類があってこそ、人間回復が可能になる。利用者に密着した計画と記録の成熟を期待している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケア及びサービスの質の向上の為には、認知症の人への愛情と心の通い合える気遣いが必要である。そのためには職員の資質が問われる。職員の研修を積み重ね、家族との交流の必要性を実現していくよう一層の努力をしていこうと考えている。</p> <p>2、全体的に見て…：代表者は、「利用者が幸せにホームで暮らしてもらいたい。家族は安心して利用者を見守って欲しい、地域に理解してもらい、応援してもらえるホームにしたい、そして、職員が一つの志を持って立派な介護士として育ってもらいたい」という思いを持って日夜頑張っている。そのためには、母体の夢工房とこのグループホームが健全な事業体としての経営指標をしっかりと確立し、職員には給与や賞与、福利厚生制度、退職金等が提供できる事業体にしたいという一念がある。「口に出したものは必ず実行する」という代表者を応援したい気持ちで、このホームを見守っていきたい。</p>		